



生みの親といっしょに  
よりよい育ての親に

わたしを ぎゅっとして  
わたしを 見つめて  
わたしを 聞いて  
わたしを 呼んで

**〔人を創る・自分を創る〕**  
**～利他の心・他人のために生きる自分を創る～**

ヒト族として現生人類ホモ・サピエンス(賢い人・叡知人)の出現は30万年にもなると言われています。  
このヒト族は他の人族に比較して未成熟なまま生命を授けられてきましたが  
他の人族に比べて賢く環境に適応しながら生きてきた生物だということです。  
改めて「ヒトの育ちを科学の視点で理解する」という「ヒトの成り立ち」を考えたとき、  
次のようなことを科学的エビデンスとして忘れてはなりません。

**～ヒトの育ちを科学の視点で理解する～**

1. 生物としてのヒトの育ちの前提は、環境の影響を受けて可塑的に変化する。
2. 他者との身体接触なしには生存できないヒト(社会的環境)である。
3. 他者は「心地よさ」を持たせてくれるという記憶を大切にす。
4. 視聴覚の情報が身体的接触による「心地よい感覚」からセロトニンやドーパミン、オキシトシンなどの神経伝達物質(愛情ホルモン等)を生む。
5. ヒトは「共同養育」の形質を獲得して進化してきた生物である(共同養育の崩壊と母親への育児負担)
6. 「親も子ども」共に社会で育まれるべき対象である。

明和政子 ちくま新書

私は50年もの長い間、この「人間教育」を生業として生きてきました。

そして「私はヒトとして如何に生きるべきか」  
を見つめ続け、経営理念(哲学)は「人を創る・自分を創る」になったのです。

私の敬愛する稲森和夫氏が亡くなりました。令和4年8月24日午前8時25分。享年90。

業績は言うまでもなく京セラを創業一代で一兆円を超す企業に育て上げ、  
また52歳の時に創業した第二電電はKDDIとなり、現在は5兆円を超すマンモス企業になっています。



笑ったか ずー 一番 だっこされたか ずー 一番 やさしくされたか ずー 一番  
遊んだか ずー 一番 でかけたか ずー 一番 チャレンジしたか ずー 一番



E-mail [doushinkai@doushinkai.jp](mailto:doushinkai@doushinkai.jp) URL <http://doushinkai.jp>

TEL 04-7172-3939  
FAX 04-7172-3901

社会福祉法人 童心会

〒277-0042 千葉県柏市逆井1377番地1  
理事長 中山 勲



それだけではなく78歳の時に倒産した日本航空の再建を託され就任後一年目にして1800億の利益を出し、2年8ヶ月で日本航空の再上場を果たした世界的に知られる著名な経営者です。その追悼特集が月刊誌”致知”に組まれました。

その中で「我が心の稲森和夫氏①」の中で同い年の作家の五木寛之氏との対談『「利他」の灯をかかげて』が寄稿されています。その中で私は「稲森さんの根底に流れる仏教的思想は、いわゆる〈自利利他〉の思想である。」という五木さんの言葉が強く心に残りました。さらに氏の言葉は続きます。「この〈利他〉の思想は言うまでもなく仏教の〈自利利他〉から導かされたものだろう。そこで問題になるのは〈自利〉が先か、〈利他〉が先かということだ。稲森さんは、そのところをはっきりと、まず〈利他〉の門より入れと語っている」と書いてありました。

ご存知のように「自利利他」は比叡山で天台宗を開いた最澄の教えだと伝えられています。この言葉の意味「自利利他とは利他をいふ」とは利他を実践すればいつかは自分の利益になるのではなく「利他の実践がそのまま自分の幸せなのだ」という意味なのだそうです。私は再度改めて「ヒトの成り立ち」を見つめた時、未成熟なままで呼吸と生命を授けられたホモ・サピエンスは”五感”だけは生まれおちた時に与えられてきたようです。そして「五感の刺激を受けて感じ、社会的養育者たちとの愛された育ち・だきしめ言葉を通して「自敬・自尊心(自分を大切にできる)」を身につけるのです。「自分が好き・生きている喜び」を感じながら「生れてきてくれてありがとう!」と祝福され「生れてきて良かった」と思える人生を歩みはじめるのです。だから私たち(社福)童心会の「自利 利他」とは次のように考えています。まずヒト族はいろいろな運動、生活、言語などの機能を身につけることから始まります。

- |         |     |         |     |         |    |         |     |
|---------|-----|---------|-----|---------|----|---------|-----|
| 1. ひとりで | できる | 2. ひとりで | できた | 3. ひとりで | 創る | 4. ひとりで | 生きる |
| みんなと    | できる | みんなと    | できた | みんなと    | 創る | みんなと    | 生きる |
| 人のために   | できる | 人のために   | できた | 人のために   | 創る | 人のために   | 生きる |
| 助けあって   | できる | 助けあって   | できた | 助けあって   | 創る | 助けあって   | 生きる |

私たち(社福)童心会の訓えは「五感を刺激する0歳からの人間教育」から始まっています。「見て做い、観せて学び、聞いて考え、聴かせて習う、触れて知って、触って記憶する」ことがヒトの学びの始まりだと確信しているからです。

「偉大なるひと(Something great)」は”なぜ私たちに五感を授けたのか?”を深く考える必要があると思っています。

(社福)童心会のばら組(0歳児)さんたちは、テラスの教室からお兄さん、お姉さんたちのあそんでいる姿とか、やさしいほほえみやふれあいの中で「あこがれ や やる気(意欲)」が育まれているような気がするのです。

そしてそれらが伝統となって子どもたち一人ひとりに身につけられ、「やさしくて思いやりのある生きる力」を身につけた子どもたちに育っているのです。

ひとりで	できる	ひとりで	できた
みんなと	できる	みんなと	できた

このような人の成り立ちを身につけてから、次の道を歩み始めているのです。

ひとりで	生きる	人のために	生きる
みんなと	生きる	助けあって	生きる

正にこのあゆみが〈自利 利他〉の訓えなのではないかと思いました。

「自分のために、みんなのために、人のために、助けあって 生きる」を忘れない「(社福)童心会の人間教育」の訓えを身につけた子どもたちと共にあゆみ続けていきます。

皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

令和4年 12月 吉日  
社会福祉法人 童心会  
理事長 中山 勲

※ 童心会だよりはホームページ上でご覧になれます。  
理事長の部屋【<http://doushinkai.jp/message/>】